

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立培遠中学校
最終更新日	2023年(令和5年)2月3日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力
<ul style="list-style-type: none"> <li>リモート授業という新しい形態にも取り組み、先生方も大きな波に追われていると思う。苦しいことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張してほしい。</li> <li>ウィズコロナに向けたスタートだと思いたい。</li> <li>地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を中心に、探究学習が充実してきた。</li> <li>中学校における長期欠席の生徒は全体の4.3%である。(全国平均4.1%)</li> <li>中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。</li> <li>学校が楽しい・自分に良いところがあると感じている生徒の割合は全体で増加傾向にある</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが主体的に考え判断し行動する力を育てる</li> <li>自己肯定感を高め、他者を慮る姿勢を育てる</li> <li>心豊かにたくましく生きる力を育てる</li> </ul>

III 自校

ミッション	知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○課題発見力    ○論理的思考力    ○コミュニケーション力    ○実践力
学校教育目標	夢を志にチャレンジ ～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～	めざす子ども像	Well-beingの実現 ○課題発見力 ・身の回りの事象について、多面的・総合的に考えて課題を見つけることができる。 ○論理的思考力 ・将来の進路希望に基づいて当面の計画を立て、その達成に向けて努力することができる。 ○コミュニケーション力 ・チームとしての立場の違いを理解し、お互いを活かしながら協働することができる。 ○実践力 ・地域や身の回りの課題解決に向けて、行動をすることができる。 ※たんぼぼ魂, SDGs, 自分で決める, 生活五訓(挨拶・時間・美化・服装・姿勢)を意識して生活し、これらの力を高めていく。
現状	<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している生徒は、1年 66.7%, 79.6%, 81.5%</li> <li>自分に良いところがあると答える生徒の割合は、1年 75.6%, 2年 88.3%, 3年 79.3%である。全学年が向上している。</li> <li>長期欠席生徒は全体の4.3%である。(昨年度4.6%) ※全国平均4.1%</li> <li>日常生活で、生徒会活動を中心に問題発見、解決することが定着し始めた。</li> <li>昨年度より減少しているが、一部の生徒でSNSを中心とした人間関係のトラブルが当事者同士で解決できず、大きなトラブルになることがある。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習では、SDGsの実現や取材活動を通して、問題解決学習が定着してきた。</li> <li>一人一台のChrome bookを活用し、多様な授業方法や評価法にチャレンジしている。</li> </ul>	研究	<p>テーマ</p> <p>小中9年間を見通した主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造</p> <p>内容等</p> <p>生きた知識の習得を目指す</p>
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒・教師が学びの過程を大切にし、生徒が自ら問いを創る授業</li> <li>・「育成する力」を見通した単元計画をもとに、生徒が主体的に学び、問いを立てる。 ※問題解決学習(探究学習)の実現。問題発見能力・問題解決能力の育成。</li> <li>○「指導と評価の一体化」のための学習評価を生かした授業</li> <li>・生徒が「自己調整する」機会をもつ。粘り強さを育む。</li> </ul>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立培遠中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力せ達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力せ達成評価	総合評価	改善方策		
5	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する生徒の育成	★	継続	問題発見能力、問題解決能力を育む。	▽問題解決学習(探究学習)を、教科と総合的な学習の時間で行う。 ▽単元の中で生徒が課題を自身で設定する場面をもつ。 ▽学校生活や地域での問題解決学習に取り組む。	△授業でわかる・できると感じられる場面がある生徒の割合を90%以上にする。 △定期試験において、30%未満の生徒の割合を10%未満にする。 △生徒会活動やボランティア活動で、学校や地域の課題解決に取り組む。	□できる・わかる 1年 87.9% 2年 83.7% 3年 90.6% □30%未満 1年 13.0% 2年 14.0% 3年 15.7% □生徒会 委員会が課題解決に取り組んでいる。ボランティア活動も地域と連携し計画を立てている。	3	2	○総合的な学習の時間だけでなく、ふだんの授業でも、問いを工夫することで主体的な学びをつくる授業を設定する。 ○試験期間中の帰り学活の時間を活用し、学力補充の時間を確保する。 ○生徒会やリーダーを中心に、地域と連携しボランティア活動の充実をはかる。総合的な学習の時間でも地域との連携を進める。	□できる・わかる 1年 88.7% 2年 85.6% 3年 89.7% □30%未満 1年 13.5% 2年 12.4% 3年 15.3% □生徒会 委員会が課題解決に取り組んでいる。ボランティア活動も地域と連携し活動ができた。	3	3	3	○「できる・わかる」を感じ、主体的な学びに繋がるような問いを授業内で工夫して設定する。 ○生徒が自主的に学習に取り組めるように各教科の学習方法を提示していく。 ○生徒の意見を基に、生徒会主導の地域と連携した活動を取り入れていく。
							□わかるまで努力 1年 72.7% 2年 71.2% 3年 79.2% □授業の振り返り 1年 68.2% 2年 64.4% 3年 70.8% □計画を立てる 1年 54.5% 2年 43.3% 3年 66.7%				○生徒の主体的な学びがより進むよう、校区で研修のねらいを定め、授業改善を行う。 ○振り返りを通して、自身の理解度を把握させ、生徒の自己調整力を育む。 ○計画の立て方のモデルを提示し、前回の振り返りを次に活かせる指導を行う。				
5	自己肯定感、自己効力感が高い生徒の育成	★	継続	自分で決め、実行することを通して自信を育む。	▽自己効力感を高めるためのライフスキル教育を計画的に実施する。 ▽生徒が自ら校則を見直し、誰もが過ごしやすい学校、誰もがやり直しができる学校にしていく。 ▽生徒に寄り添い、関係づくりを通して、よりよい自己決定できるようにし、自己評価を高める。	△長期欠席生徒率を全国平均以下にする。 △学校が楽しいと回答する生徒を90%以上にする。 △自分には良いところがあると答える生徒の割合を80%以上にする。 △努力すれば、自分もたいていのことはできると答える生徒の割合を85%以上にする。	□9月末長期欠席 1年 5人 2年 5人 3年 7人 □学校が楽しい 1年 80.3% 2年 72.1% 3年 82.3% □良いところがある 1年 71.2% 2年 75.0% 3年 78.1% □たいていのことはできる 1年 78.8% 2年 82.7% 3年 85.4%	3	2	○生徒との本音と言える関係づくりを行う。 ○生徒が抱えている課題を丁寧に聞き取りながら、目標を決めたり改善したりする支援を行う。 ○課題解決の活動を行う中で、成長を実感させ、肯定的な声掛けを増やす。 ○生徒会を中心に引き続き、誰もが過ごしやすい学校づくりという視点で課題解決を行う。	□1月末長期欠席 1年 10人 2年 7人 3年 16人 □学校が楽しい 1年 73.2% 2年 76.6% 3年 80.4% □良いところがある 1年 76.1% 2年 74.8% 3年 77.3% □たいていのことはできる 1年 77.5% 2年 80.2% 3年 84.4%	3	2	3	生徒指導規定の見直しを今年度も実施できた。生徒会を中心とした生徒が自ら課題を見つけて解決に向けて実践する活動の場も増えてきており、well-beingの実現や自分で決める生徒の育成は進んでいる。一方で、集団になじめない生徒や人間関係の構築に課題を抱える生徒も見られた。生徒の自己肯定感や存在感の向上に引き続き取り組む。

5	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成	継続	運動の楽しさを実感し、健康を大切にすることを育む。	▽体育の授業で、個人の記録の伸びに着目できるよう、結果を活用する。 ▽体育的行事を、生徒にとって運動が好きと思える取組になるよう見直す。	△体力向上のために、自分で努力していることがある生徒の割合を80%以上にする。 △体育的行事における生徒の満足度を90%以上にする。	□体力向上の努力 1年 60.6% 2年 65.4% 3年 71.9% □体育大会 満足度：97.2%	3	2	○駅伝・マラソン大会に向け、生徒が主体的に練習計画を立て、実行できるように学校全体として取り組む。 ○引き続き、体育的行事の振り返りを丁寧に行い、満足度を高める。	□体力向上の努力 1年 64.8% 2年 59.5% 3年 65.6% □駅伝大会 雨天により中止	3	2	3	○年間を通して新体力テストの項目を選択し、記録を定期的に残し、生徒の伸びを把握する。 ○体育的行事の見直しを行い、生徒が主体となった取り組みを行えるようにする。
3	教職員がやりがいを感じ、充実感を得られる学校	継続	教職員一人一人が学校運営に参画する。	▽ICT 機器の活用により、業務の改善をはかる。 ▽Google classroomやドライブを利用し、情報の共有をスムーズに行う。 ▽会議を勤務時間内に設定する。	△時間外勤務時間が45時間を超える教職員を0人にする。 △仕事に意義とやりがいを感じている教員の割合を85%以上にする。 △授業づくりを行う時間が確保できている教員の割合を75%以上にする。	□4～9月平均 45時間を超える教員 34.0% (51/150) 昨年度 56.7% □やりがいを感じる 94.4% (昨年度同時期 85.7%) □時間確保できる 61.1% (昨年度同時期 57.1%)	3	2	○教職員自身が、45時間を自ら進んで達成することができるように目標管理する。 ○生徒の頑張りを肯定的に捉え、教職員と共有する。 ○情報共有がスムーズにできるようにさらに Google classroom の活用を進める	□10～1月平均 45時間を超える教員 27.2% (34/125) 昨年度 41.5% □やりがいを感じる 75.0% (昨年度同時期 76.4%) □時間確保できる 50.0% (昨年度同時期 58.8%)	3	3	3	○時間外勤務は年々減ってきている。定時退校日を徹底できるようにする。 ○ICT を活用した打ち合わせと、直接の打ち合わせの併用を行う。
7	地域・保護者から信頼され、通わせてよかったと思われる学校	継続	地域・保護者の学校教育に対する満足度を高くする。	▽コロナ禍において、Youtube や Zoom、メール配信を利用して積極的に学校の活動を地域・保護者に発信する。 ▽地域の公園の管理や環境活動など持続可能なまちづくりを教育課程に位置付ける。	△学校の取組みがよくわかると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △子どもは学校生活に満足していると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △地域を住みよいまちにしていくために貢献していると答える生徒の割合を75%以上にする。	□学校の取組がよくわかる 61.9% (昨年度同時期 51.6%) □子どもは学校生活に満足 74.1% (昨年度同時期 66.4%) □貢献している (生徒) 1年 39.4% 2年 47.1% 3年 65.6%	3	2	○メール配信を活用し、学校の取組が伝わるようにする ○保護者が行事へ参加しやすくなるように案内を丁寧に行う。 ○地域で活動する生徒の様子を伝えていくとともに、地域の方と連携できる機会を設ける。	□学校の取組がよくわかる 62.5% (昨年度同時期 53.6%) □子どもは学校生活に満足 65.1% (昨年度同時期 68.4%) □貢献している (生徒) 1年 50.7% 2年 47.7% 3年 62.9%	3	3	3	○行事の Youtube 配信を行った。来年度は、さらに普段の様子なども積極的に発信していきたい。 ○今年度、地域と共同したボランティア活動を開始できたことは大きな成果であったが、コロナ禍のため人数を制限した。来年度は、さらに活動の幅を広げ多くの生徒が参加できるようにする。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。